

平成24年度協働事業の評価及び  
平成25年度協働事業（2次募集）  
選定に係る審査について

答 申

平成25年6月24日

水戸市協働推進委員会

平成 24 年度協働事業の評価及び  
平成 25 年度協働事業(2次募集)の選定に係る  
審査について (答申)

目 次

	ページ
平成 24 年度協働事業の評価に係る審査	
全体講評・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
各事業の概要及び委員会意見・・・・・・・・	2
評価過程・評価基準・・・・・・・・・・・・・・・・	10
平成 25 年度協働事業(2次募集)の選定に係る審査	
審査結果及び全体講評・・・・・・・・・・・・・・・・	11
各事業の概要及び委員会意見・・・・・・・・	12
選考過程・基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17

# 平成 24 年度協働事業の評価に係る審査

## 全体講評

平成 22 年度に水戸市協働事業提案制度が導入されてから 3 年が過ぎ、これまでに 11 事業を実施した。そのうち、初年度から継続して事業を実施してきた 4 事業が、本制度を活用した協働事業としての最終年度を迎えた。3 年間を振り返り、いずれの事業においても、市民活動団体と市が協働で事業を実施することで、単独で取り組む以上の成果を挙げられていることから、本制度の意義を改めて強く感じることができる。協働事業者においては、活動の領域・特性はそれぞれ異なるが、熱意と努力をもって、市の担当課とともに事業に取り組んでいる姿勢が見られ、協働のまちづくりを支える原動力として、今後のさらなる活躍を期待したい。

5 月 30 日に実施された公開による事業報告会では、各協働事業団体から、事業の成果や今後の展望などが報告された。各報告ともパワーポイントや冊子などを使用し、事業内容を分かりやすく効果的に説明する工夫が認められ、改めて、事業の全体を振り返るよい機会となった。一方で、実施した事業の結果報告にとどまり、また、協働事業者と市の担当課のそれぞれの自己評価において、熟考に至らず、表面的な評価に終始し、協働による成果の報告まで至らないという点が多く見受けられた。時間的制約の中での報告ではあるが、事業を実施した中で浮き彫りになった課題や協働による成果を両者が共有し、次年度以降の事業運営に、どのようにつなげていくかなど、共通の認識を持った上で、報告するようお願いしたい。協働事業者には、事業終了後の評価シートの作成、実績報告書の提出、事業報告会での発表に至るまでが、本制度の重要なプロセスであるということを再認識いただくとともに、市の担当課には、協働事業者と同様に、協働による成果にまで言及するなど、事業報告の更なる充実について再検討していただきたい。

昨年度に実施した事業のうち、3 件の事業が今年度も引き続き実施することが決定している。協働事業者と市の担当課は、今回の事業の振り返りを今後の事業展開に生かすよう、十分協議しながら事業を進めていただきたい。その上で、お互いの特性を生かしながらパートナーとして事業に取り組むことで、相乗効果が生まれ、協働によるまちづくりが更に豊かに発展していくことを期待したい。

## 各事業の概要及び委員会意見

協働事業名	千波湖環境学習会	評価欄 <b>B</b>
協働事業者 一般社団法人茨城県環境管理協会	市の担当課 環境課	
事業の概要	<p><b>千波湖親水デッキでの環境学習会の開催</b></p> <p>自然と環境保全の大切さや、千波湖、桜川の水質浄化対策の現状について知ってもらう機会とするため、水戸市のシンボル空間にある千波湖で、水、鳥、昆虫、植物、水生生物の各分野の環境学習会を開催した。</p> <p>実施回数：平成24年5月から平成25年2月までに計11回実施</p>	
委員会意見	<p>年々、学習会への参加者が増加しており、環境学習の場として、小・中学生に対する意識づけの面では高く評価できる。</p> <p>平成24年度で本制度による協働事業は終了となるが、今年度も市の担当課との協働事業として継続することから、3年間の課題を整理するとともに、「千波湖環境学習会」が多くの市民に親しまれ、定着するよう、さらなる事業の充実を図り、水戸市の魅力の一つである千波湖の水質浄化、イメージアップへとつなげていただきたい。</p>	

協働事業名	常照寺のホタル発生地の地域協働による維持管理保全	評価欄 <b>B</b>
協働事業者 茨城生物の会	市の担当課 環境課, 公園緑地課	
事業の概要	<p><b>1 ホタル生息地の維持管理</b> ホタル生息地として保全するため、現在未利用となっている常照寺周辺の市有地で、周辺住民や小学校と協力して6月に除草作業などを行った。また、7月にはホタルの勉強会を実施した。</p> <p><b>2 壁新聞の作成及び発表</b> ホタルの保全活動を通じて分かったことなどを壁新聞にまとめて、11月に発表会を行った。また、平成25年2月には活動報告のリーフレットを作成し、配布した。</p>	
委員会意見	<p>3年間、協働事業として実施していく中で、地域住民等への波及効果が見られ、浜田小学校に通う子どもたちや地域住民の協力のもと、除草作業などの地道な活動に取り組んできた点が高く評価できる。</p> <p>平成24年度で本制度による協働事業は終了となるが、環境保全は一時的な取組でなく、継続して進めていくことが重要であることから、今後も市はもとより、小学校や地域住民と連携し、ホタル生息地としての保全に努めていただきたい。</p>	

協働事業名	「水戸シニア I T リーダ養成」 並びに「シニア初心者 I T 普及」	評価欄 <b>B</b>
協働事業者 シニアネット水戸	市の担当課 高齢福祉課	
事業の概要	<p><b>1 水戸シニア I T リーダ養成</b> 地域の I T リーダを目指して、その教授法を学ぶ講座を開催し、修了者に対して市が修了証を発行した。</p> <p><b>2 シニア初心者 I T 普及</b> 初心者向け及びシニア初心者教室修了生向けパソコン教室を開催した。</p>	
委員会意見	<p>前年度に引き続き、初心者及び初級者を対象とした教室への応募が定員を大きく上回るなど、シニア層のパソコン活用へのニーズの高さを感じられた。一方で、I T リーダ講座の受講者は減少しており、本制度を活用して実施した3年間の課題と言える。本事業は、地域の活性化が大きな目的の一つであることから、情報化社会にあって、受講者個人の技術習得にとどまらず、市民活動の拡充を図るための地域の I T リーダを養成していくことが重要である。</p> <p>今後は、協働事業団体において、高齢者の自立支援につながる事業としての充実とともに、市と連携して、I T リーダの活躍の場を積極的に提供するなど、地域社会への還元がなされるよう、検討を重ねていただきたい。</p>	

協働事業名	ノーバディーズ・パーフェクト！完璧な親なんていない！	評価欄 <b>B</b>
協働事業者 特定非営利活動法人 子育て支援グループ ひまわりのお家	市の担当課 保健センター	
事業の概要	<p>「ノーバディーズ・パーフェクト」の開催</p> <p>認定ファシリテーターが講師となり、参加者が子育ての悩みや関心事についてお互いに話し合いながら、親の自信回復や、孤立育児の解消、虐待の未然防止につなげていく参加型の連続講座を6回実施した。講座終了後も、支援が必要と思われる親子については、保健センターと連携し、フォローを行った。</p> <p>対象：1～2歳児と保護者</p>	
委員会意見	<p>協働事業者と保健センターが連携して、育児に不安を抱える親の支援にあたる本事業は、相互の取組を補完することができるものであり、協働による効果が高いと考えられる。昨年度からは、講座終了後の参加者をフォローする事業を新たに組み入れ、継続して対象者を見守っていく体制が作られたことから、今後、対象者の幅を広げるなど、事業のさらなる充実に努めていただきたい。</p> <p>平成25年度をもって、本制度による協働事業は終了となるため、協働事業者及び市の担当課において、将来的な展望も視野に入れながら、事業運営にあたっていただきたい。</p>	

協働事業名	地域と学校をつなぐ新たな放課後活動のモデルづくり	評価欄 <b>B</b>
協働事業者 放課後の学校クラブ	市の担当課 総合教育研究所	
事業の概要	<p><b>1 放課後の学校クラブの実施</b></p> <p>子どもとおとなが放課後の学校でやりたいことやできることを話し合いながら、各々が主役となる「もうひとつの学校」をつくるため、市立浜田小学校をモデル校として、「放課後の学校クラブ」を実施した。</p> <p>また、事業の定着と普及に向け、学校関係者との連携を強化するための会議も実施した。</p> <p>実施回数：平成24年6月から平成25年2月までに計36回実施</p> <p><b>2 活動普及事業</b></p> <p>「放課後の学校クラブだより」の発行やWEBサイトの運営、外部からの専門家を招いてのシンポジウムを開催した。</p>	
委員会意見	<p>本事業は、放課後活動の活性化を目的としたユニークな事業である。自己評価において、協働事業者と市の担当課がともに、計画段階から話し合う時間がなく、十分に協議をすることができなかったと評価しているが、積極的にコミュニケーションを図り、お互いが共通認識のもとで、協働事業を実施することは、信頼関係を築く上において、不可欠である。昨年度の反省点を整理し、協働事業者と市の担当課が密に連携することで、よりよい事業展開を目指してほしい。</p> <p>また、市の担当課は、事業を実施している浜田地区が、他の地区のモデルケースとなるよう、今後、本事業に関する情報発信の方法について十分に検討していただきたい。</p>	

協働事業名	対人関係により心に傷を抱える子どもたちへのメンタル・フレンド派遣事業	評価欄 <b>A</b>
協働事業者 特定非営利活動法人 ウィメンズネット「らいず」	市の担当課 子ども課	
事業の概要	<p><b>1 学生による「メンタル・フレンド」の派遣</b> DVの目撃，虐待，いじめなど，対人関係が原因となって心に傷を抱えている子どもや，学校で孤立しがちな児童・生徒のもとへ，「メンタル・フレンド」として，学生による家庭教師を派遣した。 ※13名の学生が，13家庭17名の児童・生徒へ訪問した。</p> <p><b>2 派遣学生に対する研修及びアンケートの実施</b></p> <p><b>3 受け入れ家庭の保護者に対する面談，アンケートの実施</b></p>	
委員会意見	<p>本事業は，非常にデリケートな問題を扱うことから，対象となった子どもの人数のみで事業の成果を判断することは困難であるが，協働事業者と市の担当課が適切な役割分担のもとで，連携して円滑に事業が進められていることは高く評価できる。</p> <p>平成24年度で本制度としての協働事業は終了となるが，今年度からは，「ホームフレンド派遣事業」として子ども課との協働事業が継続される。DV等の問題は，単年度の事業実施で解決するものではないことから，できるだけ多くの子どもたちの心の傷を癒すことができるよう，今後も継続して取り組んでいただきたい。</p>	

協働事業名	子ども達が自ら考え取り組む地域ふれあい事業	評価欄 <b>B</b>
協働事業者 特定非営利活動法人 水戸子どもの劇場	市の担当課 市民生活課	
事業の概要	<p><b>地域と子どもをつなぐ地域ふれあい事業の実施</b></p> <p>よりよいコミュニティの形成や地域の賑わい創出につなげるため、酒門地区や吉田地区の学校や市民センターにおいて、地域の大人たちとともに、子どもたちが自ら考え企画し、キャンプや地域の宝探し、おもちゃのかえっこを実施した。</p>	
委員会意見	<p>本事業は、水戸市の主要な課題の一つとなっているコミュニティの活性化や住民同士の連携を深めることを目的としており、NPOと地域コミュニティが連携して事業を実施するモデル事業であったが、協働事業としては1年で終了し、他の地区への波及効果を広めることができなかったことは大変残念である。</p> <p>市の担当課には、今回の協働事業をきっかけとして、持続可能な地域力の向上策とともに、水戸市の特性にあわせた地域コミュニティの活性化に向け、活動団体と地域及び市が連携するための新たな方策を、引き続き模索してほしい。</p>	

協働事業名	水戸の子育て情報誌づくり	評価欄 <b>A</b>
協働事業者 水戸子育てネットワーク「みとこみ」	市の担当課 子ども課	
事業の概要	<p><b>「子育て中の“ママ目線”」による子育て情報誌の作成</b></p> <p>自身も子育て中の母親たちが、公共施設等でのアンケート調査や取材、意見交換を重ね、初めて子育てする親や水戸に引っ越してきた親などが知りたい情報を収集し、体験談も交えた「子育て中の“ママ目線”」による子育て情報誌を作成した。</p> <p>作成部数：4,000部</p>	
委員会意見	<p>本事業は、子育て中の親の自由な視点や発想を生かした事業として、平成24年度にスタートしたものであり、市民等からのニーズも高く、大きな成果をあげた事業であった。協働事業団体は、今年度の情報誌の改訂にあたり、子どもを連れて利用できる飲食店の情報を充実させるなど、利用者からの生の声を参考にしつつ、昨年度の経験を生かして、さらによいものになるよう努めていただきたい。</p> <p>また、市の子育て支援サイト等を活用し、最新の情報をより多くの子育て中の親に提供できるよう、市の担当課とともに、効果的な情報発信の手法を検討していただきたい。</p>	

## 評価過程・評価基準

### 【 評価過程 】

5月30日に実施された事業報告会において、協働事業の実績報告票をもとに、協働事業評価シートに沿って、事業の概要、利用者からの評価及び決算報告などについて、協働事業者から報告を受けた。また、協働事業者及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審議において、各委員の採点を合算し、評価した。また、今後事業を展開するにあたって、協働事業者と市の担当課とが更に協議を深めるべき事項について意見した。

### 【 評価基準 】

実績報告票及び協働事業評価シート並びに事業報告会をもとに、Plan（企画・計画段階）、Do（実行）、Check（評価）、Action（見直し）の4つの項目に沿って採点した。各委員の持ち点を20点とし、全委員の採点を合計した総合得点を評価の基礎とした。

また、今回の審査では、採点基準を次のように設けた。

☆ 各委員の1項目の評価（5点満点）×4項目×9人＝180点満点

			採点基準
A	評	価	144～180点
B	評	価	108～143点
C	評	価	72～107点
D	評	価	0～71点

### ☆ 審査項目及び審査の視点（20点満点）

審査項目	審査の視点	配点
1 P l a n (企画・計画段階)	① 事業目的を明確にし、協働する必要性について十分検討したか。 ② 協定書の内容は明確にしたか。 ③ 事業計画は双方協議して作成したか。	5
2 D o (実行)	① 事業の進捗を共有したか。 ② お互いに役割を果たしたか。 ③ 適切に進行管理できたか。 ④ 変更事項の協議を柔軟にできたか。	5
3 C h e c k (評価)	① 組織内部で事業を振り返ったか。 ② 受益者の評価を得られたか。 ③ 双方で事業を振り返ったか。	5
4 A c t i o n (見直し)	① 改善すべき点が明確になったか。 ② 改善方法は具体的か。	5

# 平成 25 年度協働事業(2次募集)の選定に係る審査

## 審査結果及び全体講評

### 【 審査結果 】

本委員会における審査の結果は、次のとおりである。

#### 推薦する事業

- 地場農産品消費拡大戦略水戸ご当地カレー「MI TOカレー」プロジェクト
- わくわく子育てカフェ事業
- 木戸房池ビオトープ整備事業
- 外国人を対象とした防災意識啓発事業

### 【 全体講評 】

平成 25 年度の水戸市協働事業提案の 2 次募集に対しては、4 件の新規事業が提案され、5 月 30 日に公開プレゼンテーションが実施された。4 事業のうち、「地場農産品消費拡大戦略水戸ご当地カレー「MI TOカレー」プロジェクト」と「外国人を対象とした防災意識啓発事業」の 2 事業が「行政課題提示型」メニューへの提案であり、環境保全や子育て支援での 2 事業が従来の「自由提案型」メニューへの提案であり、これまでよりも、幅広い分野からの提案となり、協働のまちづくりが進展しているという手応えを感じることができた。

「地場農産品消費拡大戦略水戸ご当地カレー「MI TOカレー」プロジェクト」は、国民食とも言えるカレーをテーマにしたイベントをツールとし、市民に親しみやすい切り口としたことで、幅広い階層に受け入れられ、全市的にイメージアップを図ることができる事業として、高い評価を受けた。

「外国人を対象とした防災意識啓発事業」は、外国人へ防災情報を提供し、同じ市民として、防災意識を高めてもらうことを目的として提案されたものである。外国語に対応した防災パンフレットを作成することで、市内に在住する外国人の災害時の不安をやわらげようという本提案は、ニーズの有効性や協働の必要性という点で高い評価を受けた。

従来の自由提案型の 2 事業についても、先見性・独創性、事業の公共性といった面が評価され、協働事業として実施することで、より効率的な行政運営に繋がると評価できるものであった。

いずれの事業についても、事業の実施にあたっては、市の担当課と十分に協議し、今後の展望を持った事業運営を進めていただきたい。そして、市民の目線に立った予算の堅実な執行と、補助金の適正な運用を心掛けていただきたい。

今回の募集に対しては、多文化共生が進展している中で、初めて外国人を対象とした事業の提案が行われるなど、提案事業の内容に変化が見られた。今後も、様々な分野において、市民活動団体と市とが、お互いの特性を生かしながら、公益的な事業に取り組むことで、市民と行政との協働によるまちづくりがより一層発展していくことを期待する。

## 各事業の概要及び委員会意見

<b>提案事業名</b>	地場農産品消費拡大戦略水戸ご当地カレー「MITOカレー」プロジェクト	<b>推薦する (261点)</b>
<b>提案団体</b> いばらきKIZUNAプロジェクト	<b>市の担当課</b> 農業技術センター	
<b>事業の概要</b>	<p><b>1 「水戸カレーバトル」の開催</b></p> <p>出品カレーに対する人気投票を行う。地元農産品を使用したカレーを出品、「地産地消」の考え方にに基づき、地場農産物利用促進事業の基準に沿ったカレーを、ご当地カレーとして、全市民的な水戸の新しいブランドに育て、水戸のイメージアップにつなげる。</p> <p><b>2 オリジナルレシピ募集・審査・発表</b></p>	
<b>委員会意見</b>	<p>全市民的に盛り上がる事ができる事業として高い評価を得た。一方で、公開プレゼンテーションでの事業計画は、やや具体性に欠ける印象が残り、本事業を一過性のイベントで終わらせないためにも、他のイベントと同時開催することで集客力をアップさせるなど、他団体との連携も視野に入れた継続的な事業運営を行ってほしい。</p> <p>また、市に対しては、本事業を全市民的な取組として推進していくため、特に市民への広報PRの面で、力を入れていただきたい。</p> <p>そして、本事業が、地場農産品の消費拡大という目的を実現するとともに、水戸市のイメージアップにつながることを期待する。</p>	

提案事業名	わくわく子育てカフェ事業	推薦する (224点)
提案団体 特定非営利活動法人 水戸こどもの劇場	市の担当課 子ども課	
事業の概要	<p><b>子育てカフェの運営</b></p> <p>少子高齢化や核家族化とともに、住環境の低下とも言える「空き家問題」が顕在化する中で、その空き家を活用した子育てカフェを運営し、多世代交流の場を提供することで、地域の子育て力の再生や、コミュニティの活性化を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営メンバーの募集，運営会議の設置</li> <li>・運営に関するワークショップの実施</li> <li>・リフォームの実施</li> </ul>	
委員会意見	<p>地域の子育て力の再生や、多世代交流の場の提供などを目的とする本事業のニーズは高いと考えられるが、公開プレゼンテーションの場では、事業の趣旨等が十分に伝わらなかった面があった。提案団体は、具体的にどのような手段を講じていくのかを再検証した上で、事業の運営にあたっていただきたい。</p> <p>また、市の担当課は、本事業を円滑に推進するため、高校、大学、地域住民及び、関係機関との連携を図るとともに、将来的には、水戸市独自の子育て支援プログラムの開発を視野に入れ、各種ニーズの掘り起こしに努めていただきたい。</p>	

提案事業名	木戸房池ビオトープ整備事業	推薦する (256点)
提案団体 特定非営利活動法人 エコ・グリーン いばらき	市の担当課 環境課	
事業の概要	<p><b>木戸房池ビオトープの整備</b></p> <p>水戸市栗崎町内にある木戸房池は、里山の面影を残す平地林に囲まれた多様な生物が生息する貴重な場所であるが、近年、その荒廃が問題となっている。提案団体と地元とが協力し、ビオトープとして整備事業を行うことにより、子どもたちの環境教育の場及び自然に親しむ人々の憩いの場をつくりあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重機による木戸房池の整地</li> <li>・ビオトープへの山道の整備</li> <li>・ビオトープ周辺の清掃作業</li> <li>・ビオトープの生物再生</li> </ul>	
委員会意見	<p>提案団体は、以前から地域住民や他の活動団体と協力し、不法投棄物の回収等、地道な活動を継続して行ってきた実績があり、円滑に事業を実施できる体制が整っていると思われる。本事業を、水戸市との協働事業で実施することで、子どもたちの環境教育や、一般市民への自然に対する意識の高揚についても一定の効果が期待できるものであり、地域住民や関係団体、小学校などと密に連携し、持続可能な環境づくりに取り組んでいただきたい。</p> <p>市の担当課は、本事業がビオトープ整備事業のモデルケースとなり得るよう、事業の運営体制を構築してほしい。</p> <p>本事業が、環境保全の分野における水戸市の先駆的取組となることを期待する。</p>	

提案事業名	外国人を対象とした防災意識啓発事業	推薦する (265点)
提案団体 みと男女平等参画を考える会	市の担当課 地域安全課	
事業の概要	<p><b>外国人を対象とした防災パンフレットの作成</b></p> <p>水戸市には約3,000人の外国人登録者が居住しているが、東日本大震災発生時に、日本語の読み書きに不慣れなため、必要な情報を得ることができず、避難所の場所がわからないなどの不自由を強いられた。このことから、災害時に必要な情報を彼らに提供するために、在住している外国人からの情報収集・意見交換を重ね、彼らの認識に合わせた独自の防災パンフレットを作成する。</p> <p>作成部数：5,000部</p>	
委員会意見	<p>多文化共生が進む中で、外国人を対象とした初めての事業提案であり、本事業の必要性は高いと考えられる。</p> <p>中国語、韓国語、英語の3か国語で、市内に在住する外国人の約8割に防災情報を提供することが可能となるが、それらの言語でも対応することができない外国人も存在することから、3か国語のみならず、多言語に対応した防災情報の提供なども視野に入れながら、事業運営にあたっていただきたい。</p> <p>市の担当課は、パンフレットの配布にあたり、外国人同士のネットワークも活用して情報を提供できるような効果的な方法を検討していただきたい。</p> <p>本事業が、安心・安全なまちづくり、さらには外国人にやさしいまちづくりにつながることを期待する。</p>	

## 選考過程・基準

### 【 選考過程 】

協働事業提案書をもとに、5月30日に実施された公開プレゼンテーションにおいて、事業の概要や協働による効果、役割分担、収支計画などについて、提案団体から説明を受けた。また、提案団体及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審議において、全委員の総合得点をもとに、各提案事業について、公共性や協働の必要性などの面から、協働事業として実施すべきか否かについて審議した。また、効率性や役割分担など、事業に取り組むにあたって、提案団体と市の担当課とが更に協議を深めるべき事項について意見した。

### 【 選考基準 】

提案書類と公開プレゼンテーションをもとに、8つの審査項目に沿って採点した。各委員の持ち点を40点とし、全委員の採点を合計した総合得点を審査の基礎とした。

また、今回の審査では、提案団体のスキルアップと、より質の高い事業提案を促進するため、総合得点の6割にあたる216点を推薦に値するかどうかの基準として設定した。

### 審査項目及び審査の視点（40点満点）

審査項目	審査の視点	配点
先見性・独創性	新たな着想や創意工夫があるか	5
事業の公共性	不特定多数の利益，社会全体の利益につながるか	5
ニーズの理解	社会的課題や市民ニーズをとらえているか	5
協働の必要度	協働による相乗効果が期待できるか	5
事業の将来性	成果の活用や波及効果など将来展望が明確か	5
手段の効率性	労力や経費などの見積りが適切か	5
役割分担	自立性を尊重し，お互いの長所を生かしているか	5
実現可能性	自己資金の確保や企画内容が実現可能か	5

## 水戸市協働推進委員会委員名簿

氏名	所属等	組織区分
委員長 金本 節子	茨城大学 人文学部教授	学識経験者
副委員長 水嶋 陽子	常磐大学 人間科学部准教授	
大野 覚	認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ 理事・事務局次長	NPO代表
平沼 賢治	水戸市ボランティア連絡協議会 副会長	ボランティア代表
大槻 義光	水戸市住みよいまちづくり推進協議会 常任理事	コミュニティ代表
鹿倉よし江	水戸女性会議 会長	女性団体代表
石川 浩之	水戸商工会議所 地域資源振興課長	関係団体
沢畑 樹彦	社団法人 水戸青年会議所 2013年度 専務理事	
久保 隆	公募市民	公募市民
坂場 一栄	公募市民	